

高鷲町内の神社（1）

向鷲見旧白山神社（高鷲村史にこの神社について次のように書いてあったので、引用した。）

現在の高鷲小学校の敷地は元向鷲見区の氏神鎮守の森で、ここに白山神社が祀られていた。このお宮は別名「さなえ田の宮」といった。それは、昔ここが水田であった時夕方日が暮れたので打ち苗したまま帰ってしまった。翌朝来てみると、その苗がみんなスギになって根付いていた。そのまま神社の森にしたという言い伝えがある。

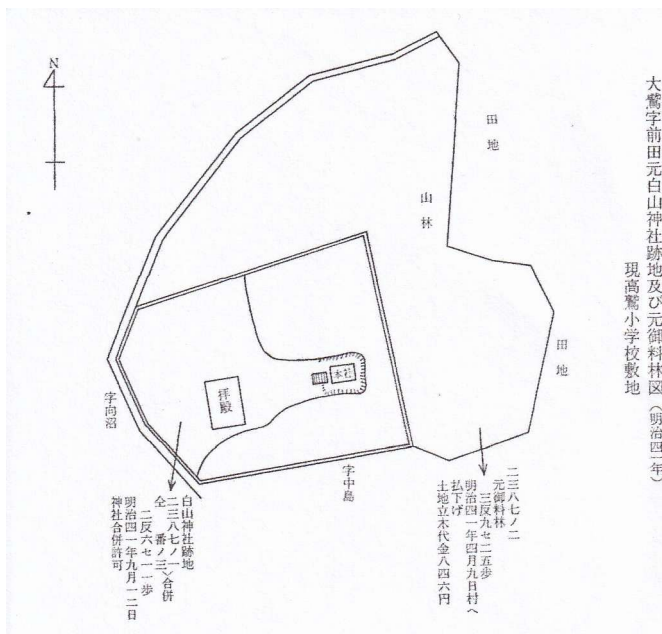
向鷲見の地が今から 4500 年前に人が住んでいたことは、小学校の校庭や浄勝寺の付近から多数の縄文土器片が発見されていることから分かる。弥生時代の遺跡は発見されていないが、昭和の初め頃高鷲小学校のグラウンドで向鷲見白山神社の拝殿跡あたりから寛永通宝に似た古銭が発見された。草書体で元慶通宝とあり、中国の通貨である。古銭には通用期間があるはずであるから、いずれにしてもこの神社は古いことが分かる。

社宝の「古鏡」と「懸仏」の中には永仁元年(1293)癸巳の記銘のあるものもあり、鷲見郷中で最も古い宮の一つである。境内は 3 反歩に及び、小学校の校庭と道路を含めた面積を占め、その規模からいって郷内一番の神社であった。

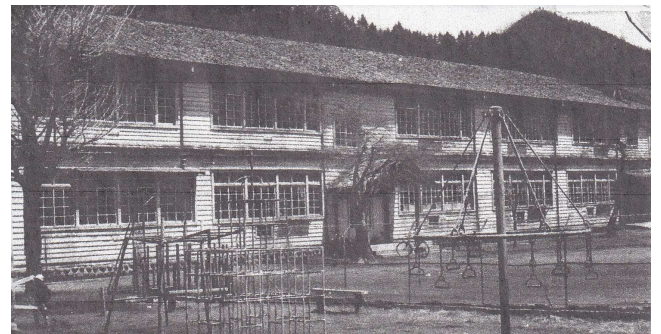
寛政 12 年(1800)の向鷲見村和田太郎右衛門文書の年貢記には、「高 238 石 1 斗 7 升の内 8 斗 7 升 4 合神社分」とあり昔から社領が寄進されていた。

明治 41 年(1908)、明治政府が全国的に神社の合併を推し進めるにあたり、当時の高鷲村村長下田平二の決断と氏子の協力によって中切、穴洞のお宮と共に正ヶ洞の天王へ合併移転させられ、境内の杉は切り倒され跡地に新たに高鷲尋常高等小学校の校舎が建てられた。

向鷲見白山神社の跡地は、明治末期の役場書類によると境内の東北に御料林があり、これを村有林に払い下げを受け、神社境内他も村有地として学校敷地とした。



向鷲見白山神社境内図



神社跡地にできた旧高鷲小学校校舎



神社跡地にできた旧高鷲村役場庁舎

大鷲白山神社

明治 41 年(1905)に穴洞・中切・向鷲見の白山神社と正ヶ洞の天王神社を合祀して 岐阜県郡上市高鷲町大鷲字下畑 184 番地に大鷲白山神社として創建された。主祭神は伊弉冊(いざなみのみこと)、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)で、摂末社祭神として素盞鳴尊(すさのおのみこと)、菊理姫尊(くくりひめのみこと)及び天鈿女尊(あめのうずめのみこと)が祀られている。明治 8 年(1875)に向鷲見村、穴洞村、中切村、正ヶ洞村の 4 ヶ村 250 戸が合併して大鷲村が出来、白山神社は大鷲村の氏神として村民の崇敬を集めた。

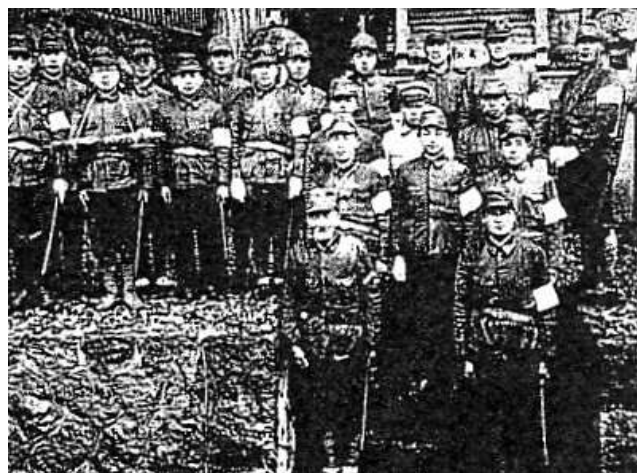
昭和 14 年の満州開拓琿春高鷲開拓団先遣隊は、出発前に大鷲白山神社を参拝し、開拓団の成功を祈願している。

また、大鷲白山神社の祭礼は、向鷲見白山神社の練り・神楽が長滝寺社僧より伝えられたものであり、穴洞白山神社の練り・神楽は向鷲見白山神社から伝わったものである。中切白山神社の神楽はどこから

伝えられたかは定かでないが、創建時に「おっきりまい」は取り入れられた。大鷲白山神社の神楽や練りは、前述のように主として向鷲見白山神社のものを取り入れ、「おっきりまい」は中切白山神社のものを取り入れ、現在に至っている。なお、衣装についてはそれぞれ持ち寄り、色合いによってこれは「奴」に、これは「きり廻し」というようにそれぞれ神社で仕まっていた衣装を活用した。その後、古くなったものからその都度変えてきた。



大鷲白山神社



満州琿春高鷲開拓団先遣隊



大鷲白山神社大神楽

お知らせ

毎週木曜日 9 時から町民センター・開拓記念館の日を開催しています。